

★高寿会研修旅行

九月二十四日高寿会が研修旅行を行い、担当者を含む六名の参加があった。この研修旅行は二〇一九年までは毎年行っていたが、コロナウイルス感染症拡大に伴い中止となり、六年ぶりの開催となった。

高寿会は教区内七十歳以上の僧侶や寺族が会員となり、総会や研修会、研修旅行等を行っている団体で今回は本願寺吉崎別院、真宗大谷派吉崎別院及び吉崎御坊願慶寺（がんけいじ）と那谷寺（なたでら）を参拝した。東西の吉崎別院と吉崎御坊願慶寺は元々ひとつの寺院であったが、三ヶ寺に分かれた寺院である。

会員は東西の吉崎別院の本堂を参拝し吉崎御坊願慶寺では、住職から、意地悪な姑が嫁を驚かせようと鬼の面をかぶったところ、面が顔から離れなくなってしまう、蓮如上人の教化を受けたことで面が外れたという伝説が残されている「嫁威肉附面（よめおどしにくつきめん）」を見せていただいた。また江戸時代に寺の取り次ぎをしていた『御坊』の役割について説明をしてもらった。

そして蔵の中から蓮如上人ゆかりの法物が最近見つかったと言われ、今後の更なる研究が進んでいくのではと述べられた。

その後、九谷満月で昼食をとり那谷寺を参拝した。那谷寺は温谷寺（うだにでら）・栄谷寺（さかえだにでら）とともに、天台宗白山三ヶ

寺と言われており、戦国・安土桃山時代に那谷寺は火災のため衰退したが、一六四〇年、前田利常が鷹狩りの際に那谷寺を見つけ、一六四二年にかけて本殿、唐門、拜殿、三重塔、護摩堂、鐘楼堂および庭園などを造り、現在に至ること。参拝するのに約一時間かかるほどの広大な敷地であった。

研ぶ回



会婦仏

盟実践運動研修会II

連人教

十月九日、西本願寺高岡会館にて高岡教区

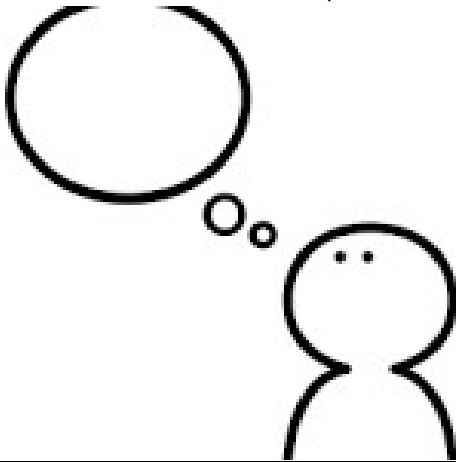
仏教婦人会連盟主催の
実践運動研修会が開催され、多くの
会員が参加した。講師には若

神組善興寺住職の飛鳥寛静さんを迎え、「戦時下における高岡教区の歩みと、私たちのこれから」をテーマに講演が行われた。

ご講師は、明治維新前後から太平洋戦争、そして現代に至るまでの本願寺教団をめぐる歴史を時系列で解説され、当時の社会情勢や本願寺を取り巻く環境を紹介しながら、なぜ本願寺が戦争協力へと向かったのか、その背景をわかりやすく語られた。参加者は、記録としては知っていた出来事でも、具体的な経緯などを知ることによって改めて歴史の重みを感じていた様子だった。

また、戦時下の金属類回収令によって供出された仏具の代用品として、セメント製の仏具が使用されていた事実にも触れられ、ご自坊で保管していたセメント製仏具を会場に展示された。当時を物語る品に参加者は興味深く見入っており、時代背景やご門徒・寺院関係者が置かれた厳しい状況に思いを馳せる場面も見られた。

講演の締めくくりでは、「私たちは、知るべきことを知ったうえで、何を考え、どう生きるのかが問われている」と語られ、現代に生きる私たちが平和な社会を築くために、どう行動すべきかについて学びを深めることができた。本研修会は、単に歴史を知識として学ぶだけでなく、戦争の記憶が薄れゆく時代に、過去を見つめ直し「これから」を考える機会となった。



高岡会館報恩講お初夜「親鸞聖人を語るつどい」

日 時 11月25日（火）午後2時～4時

内 容 午後2時～ お勤め（宗祖讃仰作法）
午後2時45分～ ご講演
テーマ 「親鸞聖人は誰とともにどう生きられたのか」
ご講師 林 史樹さん（伏木組要願寺住職）
午後3時45分～ 『瑠璃の響き』合唱

（詳しくは同封のチラシをご覧ください。）

西本願寺高岡会館 報恩講法要のご案内

○下記の通り高岡会館の報恩講を勤めます。

日 時：11月26日（水）日中一午前10時

速夜一午後1時30分

布 教：岡 西 法 英 師（五位組教願寺住職）

※お斎（お弁当）を用意しております。

◇御同朋の社会をめざす運動のコーナー

〈我々の死者〉の喪失と回復・ヤスク二問題の一視点

社会学者の大澤真幸は、日本人の環境問題・気候変動問題に対する極端な無関心に注目し、その鈍感さは〈未来の他者〉への配慮に欠けているからと指摘する。そして、そのような〈未来の他者〉への現代日本人の鈍感さは〈過去の他者〉、すなわち〈我々の死者〉をもたないからだという。日本人は〈我々の死者〉を失った。いつ失ったのか。それははつきりしている。アジア・太平洋戦争に負けたときであると。その通りだと私も思う。

戦後の日本人は、戦前の他者たち、とりわけ戦争で死んでいった者たちが実現しようと願っていたもの、彼らがそのために死んでいった「大義」をそのまま継承し、それを完成しようと努力するわけにはいかなかった。敗戦を通じて、日本人は自らが追求してきたことが過ちであることを学んだからである。それが敗戦を受け入れ、新しい憲法を承認し、戦前とは異なる政治体制を樹立し、維持してきたことの意味であった。戦後の日本人は、戦争前の死者たちの願望や希望を打ち捨てなければならなかった。それが〈我々の死者〉の喪失ということであり、そのことは知らず知らずのうちに、〈未来の他者〉への無関心に帰結していた。そうだとすれば、何らかの意味での〈我々の死者〉の回復が必要になる。

しかし、それは〈我々の死者〉を「英霊」として肯定することでは決してない。戦前の過ちを否認することは、戦後の日本人の歩みすべてを否定することでもある。それは同時に、死者を一方的に断罪し、「無駄死であった」と簡単に棄てていくことでもない。そのような表層的な見方では、〈我々の死者〉の回復など到底できない。それでは、〈我々の死者〉を回復すると同時に、〈我々の死者〉から逃れるという二律背反を引き受けていく道はあるのだろうか。

この難問にあつて思い浮かぶのは、「さるべき業縁のもよほさば、いかなるふるまひもすべし」との『歎異抄』の人間観である。そこで求められているのは、欠点だらけの人間同士、かろうじて個人的にも社会的

にも生きていける程度の、ごく控えめな道徳心ではないのか。

大澤はいう。「どの国の歴史、どの共同体の歴史、どの集団の歴史にも、無数の過ちや罪が含まれている。奴隷制があり、人種主義があり、女性の抑圧があり、自由の侵害があり、特定の宗教の弾圧があり、異端審問があり、…。これらの過ちや罪は、取り返しのつかないものであり、常に手遅れの状態で見出される。(中略)そしていったん人種主義や奴隷制や女性の抑圧等が誤りであったと知ってしまったら、それらはかつてからずっと誤りであったと見なさざるを得ない。『あの頃はそれが(たとえば黒人を奴隷化することが)正しかったのだ』という言い訳は利かない。その過ちを犯していた過去の他者(つまり死者たち)が、〈我々の死者〉の系譜から脱落するということである。したがってこう言わなければならぬ。どの国民も、どの民族も、どの人民も、自らの罪や過ちを見出すたびに、〈我々の死者〉を失ったところから、あらためて始めなくてはならない。〈我々の死者〉を棄却しつつ回復すること、これは共同体の宿命である」と。

しかし無謀な戦争を始め、あまりに凄惨な負け方をしたせいなのか、生き残った日本人の多くは「自分が戦争を許容していた」ことを都合よく忘却・否認し、「自分はだまされていた」というスタンスをとった。「『だまされていた』と云って平気でいられる国民なら、おそらく今後も何度でもだまされるだろう」(伊丹万作)。

〈我々の死者〉を棄却しつつ回復するとは、たとえ葛藤を伴うものであつても、共同体の宿命から逃げることなく、「さるべき業縁のもよほさば、いかなるふるまひもする」人間の罪業性を自らの課題として引き受けること。感覚を研ぎ澄まし、〈死者〉からのかすかなシグナルに耳を傾けること。「あなたは私にどうしてほしいのですか？」と終わりのない問い続けること。そのような果てしない心の構えだけが〈我々の死者〉を回復していく控えめで確かな道ではないかと私は思っている。

【ヤスク二問題専門委員 公文名眞】

◇これからの日程（11/14～12/31）◇

11月	教区・財団行事	教化団体・組行事
14	常例法座	
19		門徒総代会常任幹事会 教学研究室
25	親鸞聖人を語るつどい	
26	会館報恩講	
28		コーラス（午後）
12月		
1		布教団役員会
3		寺女研修会 仏壮理事会・忘年会
4	財団理事会	
5		ビハーラサロンお寺ヨガ 常例線会所懇談会
6	連研履修者研修会	
8		仏婦第2回常任委員会 コーラス（午後）
9		
11	連区職員研修会（福井～12日） 寺院振興対策委員会 組長会・忘年会	
12		講社もち米進納（～13日）
13		寺青実践運動研修会
14	常例法座	
16	ブロック組長会打合せ	
17		水波組聞法のつどい
19	連研のための研修会	
20		仏の子どものつどい
23	常備会	
26	午前中教務所事務終了	
27	（1月8日（月） 事務開始）	仏青教区のつどい

ラジオ放送～西本願寺の時間～

『みほとけとともに』

北日本放送（KNB）・738kHz.

□第2・4日曜日（富山・高岡制作）午前6:00～6:10

●12月14日（日）

磯原孝雄師

（高岡教区五位組光明寺）

●12月28日（日）

村上昂文師

（高岡教区水波組西養寺）

※高岡教区及び富山教区が主催し、北日本放送（KNB）にて毎週日曜日午前6時から放送しております。「西本願寺の時間」は、放送を継続しております。

また、西本願寺では、動画配信サイトを設置し法話等を配信しております。ご視聴ください。

<https://broadcast.hongwanji.or.jp/>



☆お知らせ☆

『法輪せんべい』販売について

平素より法輪せんべいをご愛顧いただきましてまことにありがとうございます。

法輪せんべい専用電話サービスは終了いたしました。

今後は下記公式 LINE 若しくはメールにてご注文ください。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

一袋二枚入りで価格は次の通り

特大箱（170袋）10,000円
1組（10袋）600円

お申込み先

高岡教務所内（寺族青年会担当）

←公式 LINE はこちら



【西本願寺高岡会館 12月の常例法座】

ご講師：林史樹師

（伏木組要願寺）

ご講題：『たとえ 相手を理解できなくても 大切にすることはできる』

午後1時20分頃からビデオ上映、2時からお正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘いあわせてお参りください。